

4 “EUの首都”・ブリュッセル

たび重なる侵略にあえいできたベルギーの首都、ブリュッセルは、第二次世界大戦後、欧州の共存と平和を象徴する都市となった。ブリュッセルにはEU（欧州連合）の機関も多くあり、“EUの首都”と呼ばれる。

その三大主要機関のうち、欧州委員会にアポを取りつけた私は、首都・ブリュッセルへ取材に出かけた。規模こそ小さいが、フランス文化のゆき渡ったその街には、高層ビルの立ち並ぶ近代的な道路と石畳の敷き詰められた細い裏道とがからみ合った、歴史ある都市独特の雰囲気がある。

まず、欧州理事会に向かった。欧州理事会は、各国の代表として国益獲得の責任を背負った大臣たちが集まって熱く議論する場である。

言い換えれば、戦争のなくなったEU域内で唯一「国益を賭ける戦場」なのである。

その日は農業政策についての会議が行われていた。この政策はEUの大国、英仏独が真っ二つに分かれて国益争奪戦を繰り広げている、最も注目されている議題の一つだ。「英独の税金がEUを通して、仏の農家

国益を賭ける戦場

へ補助金として流れている」と解釈されており、英独は「EUの農業政策を縮小したい」。逆に仏は「過去30年頼ってきた、その金のなる木は離せないということだ」。会議後の記者会見参加のための許

可証を手に入れロビーへ抜けると、ヨーロッパ人の新聞記者や各国からのロビー活動家がひしめいている。あるフランス人記者は言う。「パリで今、農家の人々がデモをやっている。だから、きょうはフランスの農業大臣はこのEUの農業政策縮小の案件には絶対反対らしい」。結局会議はフランスの意向により午前で打ち切れられ、記者会見は中止となった。

新しい壮大な建物だけは見ることができた。議会とは名ばかりで、欧州理事会の補佐的な立場でしか、EUの意思決定には参加できない。しかし、EUの唯一の民主主義の府の現状は、好転しつつある。あの建物で国という単位を超えた欧州の政治家たちが本当に活躍できる日が待ち遠しい。

三大主要機関のうち最後に訪れたのが、欧州委員会である。ここで、ある高級官僚と会えることになった。欧州委員会は日本でいえば各省庁にあたり、欧州理事会に議題を提出したり、理事会の決定を執行する機関である。欧州委員会はブリュッセルの街のあちこちに散らばっており、そこで働く人々はヨーロッパ人のための官僚・公務員である。

アポをとっておいいたのは、「非EU加盟国に帯する情報提供部」の責任者、ジャク・ヴァントーメ氏である。フランス語なまりの英語を話すこのEUの官僚は、筆者の質問にゆっくりと言葉を選びながら答えてくれた。

(左ページに会見詳報)

欧州理事会、欧州議会、そして欧州委員会。それら主要機関をはじめEUという組織の中では、加盟15カ国から集まった職員が共に働く。言語の違いだけでなく文化、生活習慣もの考え方もさまざまである。その違い乗り越え平和を築いている人々に触れられた「首都」取材であった。

大ヨーロッパ

中大生のレポート

経済学部 黒沼 勇史



欧州理事会の正面玄関

欧州委員会の EU官僚に会見

現在（3月8日）のユーゴスラビアにおける紛争をも解決できる統一EU軍の創設は可能でしょうか。

答 外交政策、安全保障政策、そして防衛政策に関わっており、もっぱら加盟国の問題だ。近年のアムステルダムにおける新しいEU条約では、共通外交・安全保障政策のための協議が進められたが、EUはいまだユーゴスラビア問題に関われるほど、この分野での共通した政策を持つには至っていない。

アメリカが、まだ、しばらくは主要な役割を担っていくだろうと思うが、もちろん私は、この分野においてもEUが少しずつ、より緊密な関係を築いていけば、と願っている。EUの貿易・経済の政策や、統一された市場や通貨を見ればわかるように、EUはさまざまな分野において政策を共通化させてきている。そして、EUの政策の共通化はまだ始まったばかりなのだ。

EUの環境政策は？ 地球温暖化のための海面上昇がオランダなどを襲うのでは。

答 私の知る限り海面上昇問題に対して、EUレベルの行動は何も起こっていない。しかし、オランダの人々は何世紀も水と共に生きており、経験も豊富で、その問題の解決では防波堤を築くなどで卓越しているだ

ろ。だから、それがオランダにとって大問題になるとは思わない。

もし問題になったとしても、それはオランダ一国の問題で、EUの問題ではないというところでしようか。

答 深刻な問題を防ぐため、EUは弱い加盟国のための優先順位をつけて政策を打ち出す。だから海岸を

持たない国も含め全加盟国が、この水位問題に対して、連帯責任をもって取り組む枠組みはある。

EUの地域開発政策についても同様で、より発展した加盟国が、あまり発展していない加盟国を助け、そして豊かな北の国から貧しい南の国へ富を再配分している。

なぜなら、EUの基本原則の一つが連帯責任、あるいは相互扶助であるからだ。それゆえ、もし水位問題が深刻化し、問題となっている国のみで立ち迎えないければ、EU全加盟国で取り組むことになるだろう。私たちの寿命が尽きるであろう2050年頃、EUはどのように？

答 過去50年を振り返ると、EUによって達せられた多くのことに気づく。もちろん若い人々は20世紀末のEUを見ていたので、その達成の度合いがあまり明らかではないかも知

ジャク・ヴァントーメ氏



「いつも問題解決の 共通意志」

れない。しかし、過去50年間に一枚の挿し絵を入れてみると、西ヨーロッパに一度も戦争がなかったという事に気づくに違いない。過去千五百年以上のヨーロッパの歴史を振り返り、国々の間に一度も戦争がなかった50年間が、いったいあるだろうか。これだけでもすでに大きな業

績といえる。そして、もし次の50年間もこれが続けば、EU域内の平和は未長く続く十分に信じられるだろう。

と言っても「EUの基本目標が平和維持である」と言っているのではない。もし、EUの条約をみれば、繁栄や幸福、人々のための欧州がうたわれているのがわかる。しかし、最終的には、それらを達成するための第一条件となるのは、平和を維持することである。その意味で、次の50年間も私たちは過去の教訓を引き

出して、この平和メカニズムを的確に保持しなければならない。

そのメカニズムは主にEUの諸機関のことで、それぞれ違つた利益を受け入れたり調整したり、それらに立ち向かったり議論したりする。そこにはいつも問題解決のための共通の意志がある。そして、その共通の意志を否定的な見方であると、軍事解決の手段ということになるが、それは加盟国の間では好まれる選択ではない。私たちには欧州理事会、欧州議会、欧州委員会がある。いま私たちは共にテーブルを囲んで座り、過去に使われた軍事手段によるのではなく、もつとまともな大人の方法で問題を解決していくことが基本的にはできるはずだ、と私は考えている。

世界におけるEUの役割は？

答 過去と同様の結果をこれからもち続けることができれば、EUは地域連合の一つのモデルとして世界に認識されるだろう。そして、ただ他の国々を援助するだけでなく、EUは他にも似たような地域連合があることを考え、彼らの組織運営を助けるべきだろう。

私たちはまた超大国のような力となるのではなく、この平和な地域を世界のためのひとつのガイドラインとして守り続け、世界の他の地域にとって良きパートナーであるべきだと思う。世界においてEUが、このような役割を果たしていければ、と私は願っている。